

会 議 録

(1)会議概要

会 議 名	令和3年度 第8回泉大津市参画と協働のまちづくり推進会議		
開 催 日 時	令和4年2月10日（木）19時00分～20時45分		
開 催 方 法	泉大津市役所4階401会議室及びZoomを活用したオンラインにより開催		
出 席 者	委 員	久委員、大久保委員、高寺委員、湯川委員、河野委員、金原委員、中井委員、岩出委員、川上委員、日高委員	
	事 務 局	川口政策推進部長、寒市民協働推進課長、森田市民協働推進課長補佐、田戸市民協働推進課係員、中島市民協働推進課係員、寺田おづぶらざセンター長	
傍聴の可否	可 (会場又はインターネット配信)	傍聴者数	3 人
会 議 次 第	1 開会 2 令和3年度事業報告及び令和4年度の取り組みについて 3 その他 4 閉会		

(2)議事内容

○以下、事務局による進行

1. 開会

- 川口政策推進部長あいさつ
- 委員紹介、事務局紹介
- 会長・副会長の選出
- 会長あいさつ
- 資料確認

○以下、会長による進行

2. 案件

①事務局より「令和3年度事業報告及び令和4年度の取り組みについて」を説明（記録省略）

その後、委員による質疑応答

委員からの主な意見・指摘事項等

■ コロナ禍における市民公益活動や市民活動支援センター（以下おづぶらざ）について

コロナ禍で活動が停滞している団体もあり、モチベーションの維持が課題である。おづぶらざでは困っている市民活動団体の状況把握やコロナ禍が収束した後のフォロー等をお願いしたい。また、おづぶらざサポートのもと、市民活動団体のPR動画やホームページを作成することで他の団体活動が見えるようになるのではないかな。

コロナ禍だからこそ発生する今までとは違った新たな社会ニーズや地域ニーズがある。市民活動団体は、自分達の活動だけではなく、困っている人を支援する活動が必要であり、市民同士の支え合いやネットワークの中で生まれる仕組みや取り組みに対し、おづぶらざも支援いただきたい。また、ICTの推進においては、気軽に試して困った時は協力し合える雰囲気づくりが必要であり、その雰囲気によってオンラインに対するハードルが下がってくる。Zoomでの井戸端会議のような取り組みを期待したい。

おづぶらざを受託している特定非営利活動法人きんきうえぶはICT技術をどのように社会に広めていくかという活動を行っている。その強みを発揮していただきたい。また、泉大津市以外でも中間支援を行っており、他市の良いところを泉大津市に注入していただける可能性がある。今後も頑張ってください。

コミュニティFM放送局「FMいずみおおつ」とおづぶらざが協力して市民活動団体の出演を増やす仕組み作りをしてはどうか。

■ ふるさと応援寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金制度について

ふるさと応援寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金制度は団体の経済的自立の方法の一つである。申請実績がないのであれば課題等を改善し、来年度以降の制度活用に向けて力を入れていただきたい。

■ 市民参画について

職員を含め、泉大津市全体に「泉大津市参画及び協働の推進に関する条例」を浸透させる必要がある。

ワークショップは実施することよりもその結果がどう反映されたのかを確認することが重要である。ワークショップ後の成果が次の展開にどう影響したのかが見えるよう考えていただきたい。

条件や状況が変わることにより団体の活動に影響することもある。必ずしも要求・要望がすべて通るものではないが、変わった部分について納得をした上でどうすればお互いがよりよい方向に進むのか話し合うことが「協働」である。

コロナ禍を受け、新たな市民参画方法を模索していただきたい。他市の事例として、都市計画関係の説明会を Youtube 配信している。意見等があれば Youtube 配信のコメント欄に書きこんでもらい、それがパブリックコメントの扱いになるような取り組みを行っている。Youtube 配信はハードルが高いように感じると思うが、意見する側が好きな時間に説明が聞くことができたり、気軽に意見をいただけるような仕組みを取り入れていただきたい。

■ パブリックコメントについて

行政の計画等はボリュームがあり、内容を確認するだけでも時間がかかり参画しづらい印象がある。計画等策定の直前に意見を聞くのではなく、普段から公式 LINE 等で計画に関わる質問を投げかけて意見を収集する等、気楽にやりとりができる仕組み作りが必要ではないか。

■ 市長への提言制度について

電子媒体のアンケート等を取り入れ、若者も提言しやすいような取り組みをしてはどうか。

<p>■ LINE 広報モニターアンケートについて</p>
<p>市内事業者提供商品を回答特典にしており、良い取り組みだと思う。なお、現状、回答に労力を要する。質問内容の見直しを考えてはどうか。最も良かった記事や写真を聞いたとしても翌月も同じ内容を掲載する訳ではないと思う。広報紙の記事の作成に反映できるような質問にしてはどうか。</p>
<p>■ ホームページについて</p>
<p>「ホームページのアクセス数」の増加は IT 化が進んでいることを実感する一方で、画面遷移が複雑なためどこを検索しているかわからなくなりアクセス数が増加していることも一つの要因かと思う。見やすく探しやすくなるように工夫していただきたい。</p>
<p>■ 市民出前講座について</p>
<p>良い取り組みだが認知度が低いように感じる。具体的な活用例を示し、ニーズに応じた講座ができるようにコーディネートすることで活性化するのではないか。</p>
<p>■ 校区まちづくり協議会について</p>
<p>単位の自治会にとらわれず、校区で活動することにより地域が活性化すると感じた。</p>

②「その他」

委員、事務局ともに議題無し

○以下、事務局による進行

3. 閉会（記録省略）